

平成29年度第2回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成29年度第2回木更津市史編集委員会

2. 開催日時 平成30年1月17日(水) 午後3時00分～午後4時10分

3. 開催場所 木更津市役所朝日庁舎 会議室E

4. 出席者 市史編集委員会委員 出席8名

杉山林継委員長、成田篤彦副委員長、池田忍委員、實形裕介委員、

石和田秀幸委員、谷畑美帆委員、石井良幸委員、山口芳一委員

教育委員会事務局5名

高澤茂夫教育長、堀切由彦教育部長、岩埜伸二教育部次長、山口玲子文化課長、

小高幸男主幹

5. 議題及び公開又は非公開の別

議題 木更津市史編集部会組織の見直しについて(公開)

報告1 『木更津市史編さんだより』第2号の発行(公開)

報告2 平成29年度木更津市史編さん事業公開講座の実施(公開)

報告3 『木更津市史研究』創刊号の発行予定(公開)

報告4 『木更津市史編さん事業公開講座記録集』の発行予定(公開)

6. 傍聴人 なし

事務局(山口文化課長)

定刻となりましたので、ただ今より第2回木更津市史編集委員会を開会いたします。本日の進行は山口が務めさせていただきます。よろしく願いいたします。本日の市史編集委員会は、川戸委員、島立委員から都合により欠席の連絡がありましたのでご報告いたします。会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項の規定により成立しております。また、会議は公開で行ないますのでご了承下さい。はじめに、杉山委員長より、ご挨拶をお願いいたします。

杉山委員長 お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。あらかじめ事務局が今日の会議について聞いたところ、実際に調査をしてくれる若手の方々をいれないと、中々進まないというようなことから(市史編集部会の)構成員のことが出ています。どうかご審議の程よろしく願います。

事務局(山口文化課長)

ありがとうございました。続きまして、高澤教育長よりごあいさつ申し上げます。

高澤教育長 本日は、ご出席ありがとうございます。皆様の手元に資料がございまして、

後ほど事務局より説明がありますが、昨年の12月16日に千葉大学と共催で市史編さん事業公開講座を開催し、渡辺市長にもご参加いただきました。興味関心の高い多くの市民の方々にご参加いただき、大変盛況に行うことができました。最後にご報告のなかでもありますが、この場を借りてご協力いただいたことに感謝申し上げます。

さて、市史編さん事業も各部会長を中心に進められているわけですが、それぞれ皆さん、ご自分の仕事を持ちながらの作業ということで部会によっては、中々時間の都合があわないという方もおいでになると伺っております。そのような中で、今後、市史編さん事業を進める中で、少し、編集部会の見直しをさせていただきたいと考えております。今日の議題の大きな中心となっております。今後の方向性にも係ることなので、是非、皆さんから忌憚ないご意見をいただきながらご審議させていただきたいと考えております。よろしく申し上げます。

事務局（山口文化課長）

ありがとうございました。会議に入る前に、資料確認をお願いいたします。

【資料確認】

事務局（山口文化課長）

それでは、議事に入ります。議長は委員長が務めることとなっておりますので、ここからは杉山委員長をお願いいたします。

杉山委員長　それでは、議題に入ります。まず、本日の議題について事務局の説明を求めます。

事務局（小高主幹）

それでは、説明いたします。現在、木更津市史編集部会を組織する構成員として部会長と部会委員を設置しておりますが、これに新たに「調査員」を加えて、市史編さんに係る調査・研究を進めたいというものでございます。

現状では8部会のうち7部会を設置し、42名の方に委員等をお願いしております。資料3に各部会の構成メンバーを記載しておりますのでご参照ください。このうち、大学や博物館等の機関に所属している方が34名です。

昨年12月1日付けで近世・近現代・民俗・自然部会の部会長・部会委員の更新手続きを行いました。更新の際、身体的また仕事のご都合から4名の方が辞退されました。内訳は1ページに記載しているとおりでございます。

また年2回各部会長に活動実績を報告していただいておりますが、その中で課題や懸案事項についてもでております。特に人員確保と仕事の合間で調査を行うので、中々時間の都合が取れないといったことが大きな課題になっており

ます。別添資料 4 に今年度 4 月から 11 月にかけての各部会による活動実績を掲載しております。部会によって、活動実績に大きな隔たりが生じております。

事務局といたしましても、随時、委員等を探しておりますが、見つかっておりません。その対策として、大学に所属している委員のゼミ学生や、研究室の院生に調査協力をお願いするというものです。作業内容としては、部会長や部会委員を補佐し、調査及び資料の収集、整理、その他必要な作業を行っていただきます。大学生及び大学院博士前期課程の院生であれば、ある程度基礎知識もあり、あらかじめ部会委員の先生から指示を受け、作業を行えることから、人員不足を補えるのではと考えております。このことから、「調査員」を新たに設置したいので、ご協議ください。

なお、見直しに当たっては、別添資料 1「木更津市史編集部会設置要綱」と、資料 2「木更津市史編さん事業報償金等支給基準」の一部を改正し、本年 4 月から運用を開始いたしたいと考えております。私からは、以上でございます。

杉山委員長 事務局の説明が終わりましたが、意見や質問がありましたらお願いします。

谷畑委員 この「調査員」ですが、アルバイトみたいなものになりますか。

事務局(小高主幹)

謝礼は支払われますが、アルバイトというよりは、講演会等の講師同様、報償金としての支出となります。

杉山委員長 ボランティア的位置づけだが、謝金は支払われるということですね。実働時間に合わせた謝金ということでしょうか。

事務局(小高主幹)

はいそうです。1 回に 2～3 時間程度お願いしており、その活動に対して謝礼を出しております。

谷畑委員 それが年に何回を予定しているのでしょうか。

事務局(小高主幹)

一人月 4 回程度と見込んでおりますが、現状では部会により差がでておりますので、活動できる方はその枠を超えて活動していただいています。

杉山委員長 別添資料 4 にもありますが、確かに部会によって活動回数にはかなりののばらつきがあるようです。この表が現状ということですね。

部会の活動について、活動計画のようなものは作成されるのですか。

事務局(小高主幹)

各部会長を中心に部会員により活動計画を立てて活動していただくようお願いしています。ただ、現状といたしましては、活動計画のとおり概ね進められ

ている部会もありますが、仕事を持つ委員も多いことから、中々一堂に集まる
ことが困難で活動計画が十分に練られていない部会もあります。

杉山委員長 委員の中にも部会に所属しておられる方もいますが、部会の活動についてお
聞かせください。

實形委員 近世部会に所属していますが、学校の先生等も多く活動時間が休みのときが
中心になるなど制約があります。近世文書等の調査については、近隣自治体の
調査等を参考に悉皆調査等はできますし、所在が分かれば、次には目録作成・
写真撮影・筆耕などさまざまな作業が必要になるので、整理する人員が足りない
くらいにやることがでてくるのですが、まずは、悉皆調査・目録作成を早めに仕
上げるのが先決と考えています。

それを考えると、資料調査が遅れているので、どれくらい遅れているのかが
問題です。ただ建物調査で蔵等が残っているところが分かっていますので、そ
の中を調査することが近道なのかと思います。本日も近世と近現代部会合同で
下郡の鈴木家について調査に入っていますが、近世と近現代の資料は重複して
出てくることが多いわけで、合同で調査する機会が多くなります。

杉山委員長 ありがとうございます。では、石和田委員いかがですか。

石和田委員 私は古代部会ですが、河名部会長の強い意思で、毎月一回はやっています。
内容は千葉県史の古代編から木更津市に關係する項目を抜粋する作業と近隣他
市の市史からの関連資料をチェックしています。3月で県史分が終了予定です。

杉山委員長 ありがとうございます。では、成田副委員長いかがですか。

成田副委員長 自然部会は、仕事を退職された方が多いので、月に何回かは行っております。
ただ、(高齢化で) 運転等が困難な方もおりますし、足腰や目などが弱ってきて
いますので、若い方がいらっしゃれば作業は進むと思います。採取などに力を
貸していただければありがたい。

調査員を実際にお願ひするには、交通費等の実費弁償などきちんと定めないと
難しいと思います。

杉山委員長 ありがとうございます。事務局から現状と課題として出ている点について、
他の委員の皆様はいかがでしょう。

谷畑委員 先ほど、成田副委員長もおっしゃったように、条件をそろえないと募集しづ
らいと思います。それを提示していただければ、結構集まると思います。東京
などから来る学生もいると思いますので、費用弁償や謝礼等があるなら調査員
を受ける学生は、いると思います。

杉山委員長 支給基準とか、限度額とか事務局ではどのようにお考えでしょうか。

事務局(小高主幹)

現在、一回の調査(概ね2時間以上3時間まで)につき、部会長には5000円、部会員には4000円を活動謝礼として支給しております。調査員については3000円を考えております。旅費についても、実費弁償を基本に支給する予定です。日報により確認して清算するようになります。

杉山委員長 わかりました。

それでは、現状については事務局の説明・資料等でお分かりになったと思いますが、(3)の課題・懸案事項について①②まで資料のとおりということでご了解頂いた上での見直し案になるわけですが、何かございますか。

池田委員 今後の対応の中に、「調査員委嘱者の選定」の項目に、大学院博士前期課程に在籍とあるのですが、大学生も可能ですか。

杉山委員長 事務局説明をお願いします。

事務局(小高主幹)

ここでは、大学生と大学院の博士前期課程に在籍している方と規定しています。現在、大学院博士後期課程の方については部会員としてすでにお願ひしていますので、前期過程の方までを調査員として考えています。

杉山委員長 今まで、後期課程の方はすでに部会員になっていただいているので、前期課程と場合によっては大学生もいいということですか。

事務局(小高主幹)

はい。

成田副委員長 大学生、大学院前期課程の方のみということで、一般の方はどうなのでしょう。

事務局(小高主幹)

一般の方々には、部会員としてお願いしたいと考えています。

杉山委員長 調査員というと実働的に動ける人というイメージかもしれませんが、一般の人の場合は皆さんと同じ部会員としてお願いするということです。

成田副委員長 「調査員」に期待することは、たとえば私の場合ですと、私が調査に行くときに同行して採取等に協力してもらうけれど執筆には係らない、というイメージで、学生でない一般の人でも興味関心があって働ける方なのですが、そういう方は含まれないのですか。

事務局(小高主幹)

今回の提案は、部会員のなかに大学の先生も多く、ご自分が直接動けない場合に、学生などを調査に携わらせることが出来るように考えたものです。一

般の方についても、たとえば郷土史家などの場合は部会員としてお願いしたいのですが、ご本人がそこまでの活動は出来ないけれど資料収集などならお手伝いできるという場合についてはその方と相談しながら進めてまいりたいと思います。

成田副委員長　ということは、一般の方についても調査員をお願いできるということですか。
事務局(小高主幹)

はいそうです。

杉山委員長　調査員の選定をしていきたいとのことですが、(4)の①に選定基準が示されていますが、それについてのご意見をうかがいます。

基準の中に、専門部会に所属するいい意の推薦(紹介)という項目があります。これは部会員と一緒に活動していくことは必要だと思います。

意見がなければ、原案のとおりでよろしいでしょうか。石井委員、如何でしょうか。

石井委員　全体的なことになりますが、市史完成までのスケジュールについてうかがいます。進捗状況について、遅れ気味とおっしゃっていましたが、具体的にどの程度の遅れとなっているのでしょうか。1年遅れとか、具体的な数値がお分かりになれば、それに対して策を講ずることが出来ると思うのですが。

杉山委員長　スケジュールについては本日の議題には上っていないわけですが、今のところ基本的に変更はないわけですね。事務局如何ですか。

事務局(小高主幹)

各部会からは、年に2回活動報告をいただいております。活動回数などの進捗状況は把握してございますが、全体としてどの程度の進み具合なのかということについては、改めて各部会と話し合いをもち実際の進捗状況と刊行計画との差の有無について精査し、次回の編集委員会等でご報告させていただきたいと思います。

山口委員　「調査員」の選考基準についてですが、4点挙げられていますが、これは「または」と読んでよろしいわけですね。4点のうちいずれかに該当すればよいということですか。

事務局(小高主幹)

そのとおりです。

杉山委員長　池田委員いかがですか。

池田委員　調査員について、ご提案のとおり委嘱できればよいことだと思います。

杉山委員長　委員の皆様からの意見もおおむね出尽くしたようなので、ご異議がなければ

提案のとおり「調査員」を委嘱していくこととなります。

次に、資料 2 の報償金等支給基準について説明を求めます。

事務局（小高主幹）

資料 2 については、資料 1 にあります木更津市史編集部会設置要綱に基づき、部会長・部会員を委嘱しておりますが、その方々の報償金等の支払について定めております。そこに「調査員」という項目を追加するので、それに伴い支給基準のほうにも項目を追加するものです。大きなものとしては第 2 条(3)に調査員の作業内容を追加、また、別表 1 に調査員を追加して、一回あたり報償金 3000 円を定めるものです。活動については一回につき概ね 2 時間から 3 時間程度としております。一日最大 2 回と考えています。以上です。

杉山委員長 活動の記録については、部会長から出てくるのですか。日報は部会長が了解して事務局に出てくるのですか。

事務局（小高主幹）

基本的には、みなさんそれぞれ出していただいています。部会によって、共同で作業される場合と、一人ずつ作業される場合がありますので、日報については部会員個人で出していただいております。

杉山委員長 現在のところ、かなり個人的な自由裁量も多いようですが、最終的には部会で纏めていただかないといけないでしょうし、更には部会長の打ち合わせ等も必要になってくるのではないのでしょうか。時代区分についても、どこを境とするか、この委員会にも出てくるのでしょうか、部会長同士の打ち合わせも必要かと思いますが、どうでしょうか。

事務局（小高主幹）

委員長のお話を補足させていただきます。部会と編集委員会との協議の場ということでは、編集委員会が必要とする場合には召集することができます。

また、次回以降の編集委員会では、今年の活動報告書を取りまとめた上で、部会の活動状況の報告するためにも部会長にもお集まりいただいて編集委員会の中で皆様と協議をしていただく場を設けたいと思います。

委員長ご指摘の、特に歴史系の部分で時代区分についても基本構想については、以前編集委員会で協議いただき策定して頂いております。実際に作業を進める中での見直しについては、部会等の意見も踏まえながら編集委員会のご意見と併せて修正すべき点があれば見直していくことになると思います。その点も含め、具体的な作業を進めていく中でそうした機会を設けたいと思います。

杉山委員長 年度ごとに、進捗状況の把握は必要でしょうから、そういう意味では、年度

末あるいは新年度当初で一年の纏め的なことは必要だと思います。合同会議であるのか、報告書を事務局で取りまとめて報告いただくのか方法はあると思いますが、是非お願いしたい。それによって、最初の計画表との齟齬の有無等を検討したいと思います。

編集部会組織の見直しで調査員を作っていくということに関して原案でよろしいでしょうか。

【出席委員全員了承】

ご異議がないようですので、原案通り可決いたします。事務局は本日の意見を踏まえて事務を進めてください。

事務局（山口文化課長）

承知いたしました。

杉山委員長 議題は、以上です。次に、その他報告事項ということなので、報告事項について説明をお願いします。

事務局（小高主幹）

それではご報告させていただきます。

昨年 11 月 3 日に市史編さんだより第 2 号を発行いたしました。部会委員と前編集委員長金子先生のご協力を頂き原稿をお寄せいただき、12 頁で発行しました。内容は、今年度が市政施行 75 周年にあたりそれに関したもの、(請西藩)林家に関するもの、部会活動中間報告として近現代部会の調査報告を掲載しています。また、市史の調査の中で一橋大学・中央大学の和書の調査チームと合同で木更津図書館所蔵の和書に関する調査を実施しており、その様子を掲載しております。合同調査については、ある程度の成果が出た段階でそれぞれの先生から資料報告を頂き市史に反映していきたいと考えています。加えて、各部会の活動状況についても掲載しております。

更に、千葉県地質ということから、今話題になっているチバニアンについて、自然部会の篠崎委員に書いていただいています。

全体的に前回に比べ内容の充実したものとなっております。編さんだよりは年 1 回の発行を予定しておりますので、編集委員会の皆様にもご協力を頂きたいと存じます。

次に昨年 12 月 16 日に行いました市史編さん事業公開講座についてですが、内容は講演が 3 本とパネル展示でした。今回は千葉大学公開市民講座として千葉大学と共催で実施しました。当日はスタッフ含めて 160 名が参加しました。過去 3 回の公開講座は概ね 50 名程度の参加者でした。この報告につきまして

は来年の公開講座記録集に掲載したいと考えております。

その他として、今年度の刊行予定といたしまして市史研究創刊号がございます。執筆者及び内容については別添資料をご覧ください。編集委員の実形委員、成田副委員長を含め8名の方に原稿を頂いております。内容は、近世・近現代・民俗・自然等それぞれの部会の方々から原稿を頂いております。なお、考古・古代・中世部会につきましては部会の設置が今年度でしたので、第2号以降に掲載をお願いする予定です。発行は、今年度末を予定しております。

その他に、年一回行ってまいりました、市史編さん事業公開講座の記録集を平成26年度から昨年度までの分をまとめて発行予定です。講演録の掲載ということで現在準備中です。これも、今年度末発行予定です。

報告については以上となります。

他に、お知らせですが、本年3月4日に木更津市民総合福祉会館におきまして上総木更津金鈴塚古墳出土品国宝化推進事業公開講座を開催いたします。講師は、國學院大學教授の笹生衛先生です。ご都合がございましたら、ご参加下さい。

杉山委員長 (『木更津市史編さんだより』や『木更津市史研究』は) 多くの人が執筆してくださっているようです。これからも、皆様のご協力で進めていかなければならないと思います。とはいえ、市史刊行計画は長大な計画で、時間の経過により変わってくるところもあり、余り停滞しないよう進めていかなければと思います。委員の先生方にもご協力をお願いします。

ただいま事務局から報告について、質問などありましたらお願いします。

質問がなければ本日の議事は以上で終了とします。それでは議長の職を解かせていただきます。本日は、ご協力いただきありがとうございました。

事務局 (山口文化課長)

杉山委員長、議事進行ありがとうございました。以上を持ちまして第2回木更津市史編集委員会を終了いたします。本日はありがとうございました。

平成30年1月17日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 杉山 林継